

若者たちに居場所を

横須賀の
NPO 共同生活事業が1年

ひきこもりの若者たちの支援を続けるNPO法人「アンガー・ジュマン・よこすか」（横須賀市上町）が昨年10月に始めたシェアハウス事業が、もうすぐ1年を迎える。共同生活の中で人との接し方を学び、社会へと巣立った若者もいて、少しずつ成果が表れている。（織田 匠）

「最初はいろんな不安があった。でも、これまで問題なくきている」。理事長の島田徳隆さん(40)はうなずいた。

不登校の子どもたちやひきこもりの若者に「居場所」を提供してきたアンガー・ジュマン。それぞれのペースで参加できるフリースペースの提供や学習サポートを行う。同NPOが運営する「はるかぜ書店」の作業は就労訓練の場として、社会に踏み出すきっかけづくりとなっている。

昨秋から始まったシェアハウス事業もその一環。ひきこもりの経験者同士が同市佐野町の木造平屋住宅に住み、寝食を共にする。食費などは自己負担だが、家賃は市が助成。入居期間は1

ひきこもりから自立支援

人につき原則3カ月間で最長1年までとなっている。

個々の主体性を尊重するため、スタッフが常駐し管理することはない。当初は「シェアハウス内でひきこもってしまうのでは」と心配する外部の声もあった。だが、基本的にアンガ



シェアハウスで協力しながら暮らす入居者たち(NPO法人アンガー・ジュマン・よこすか提供)



入居者ら若者の悩みを聞く島田徳隆
＝横須賀市上町
理事長

ー・ジュマンで知り合った通所者に勧められており、急な環境の変化でひきこもってしまった者はいない。

これまでシェアハウスを卒業したのは18〜33歳の男性10人。共同生活では炊事、洗濯当番など個々の得手不得手に応じて役割ができた。島田さんは「こちらが指示することもなく、自然発生的に分担していた。1人では難しいことも仲間ですべての生活の中で身につけていった」と振り返る。

その後、市内の警備会社に入社したり、アルバイト

「家族のありがたみが分かった」「自立について考えるようになった」。入居していた若者が残した言葉だ。島田さんは「次は女性専用の棟をつくりたい」とさらなるサポートの拡充を思い描いている。

問い合わせは、アンガー・ジュマン ☎046(801)7881。